

# 在来種カンサイタンポポの分布

～黒田官兵衛が福岡城に運んだ？～

自然・環境科学研究所

○講師 <sup>すずき たけし</sup> 鈴木 武

## キーワード

生物地理、市民参加型調査、カンサイタンポポ、東瀬戸内川、江戸時代の移入

## 研究概要

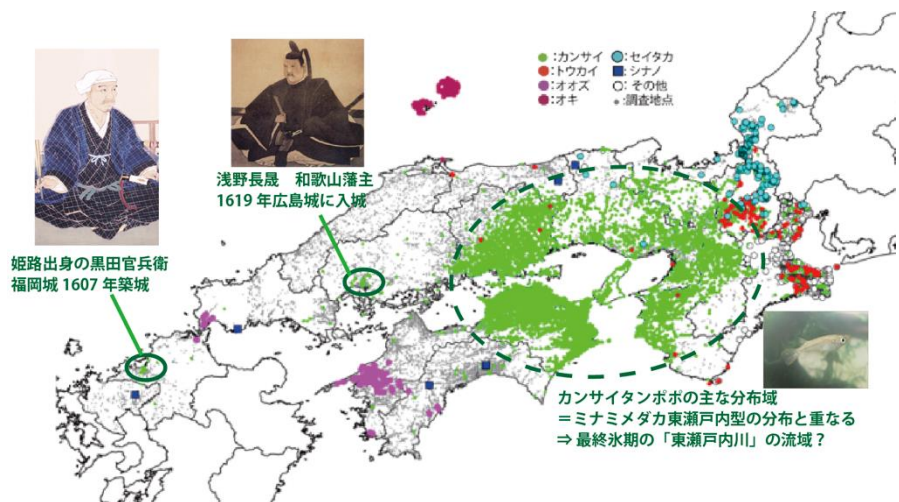
タンポポは春の代表的な野草です。このうち、西日本に分布している在来種がカンサイタンポポです。市民参加型調査として、タンポポ調査・西日本を2010年から5年おきに実施され、西日本でのカンサイタンポポの分布の特徴が明らかになってきました。

- ① 分布の中心は瀬戸内海東部であり、この範囲はミナミメダカ東瀬戸内型の分布と重なっていて、最終氷期の東瀬戸内川流域との関係が考えられます。
- ② 大きく分布が離れた福岡城周辺、広島城周辺にはカンサイタンポポがかなり生育していることがわかりました。関西出身の黒田家、浅野家が城主であり、江戸時代の移入の可能性が十分に考えられます。



カンサイタンポポ

カンサイタンポポなどの分布図（タンポポ調査・西日本より作図）



## アピールポイント

「生物多様性」はそれぞれの「地域の固有性」の反映でもあります。それぞれの生き物の分布を明らかにしようとするのが少数の研究者だけでは困難です。タンポポのような身近な生き物であれば、各地の市民からサンプルと情報を送ってもらうことで、広範囲で密な分布図をつくることができます。その結果できた分布図から、他の生物の分布、地形や気候との対応など生物地理学的な解析が可能になります。

西日本全体の調査では、国際花と緑の保全協会、宝酒造、東洋ゴム工業などの助成を受け、パンフレットの作成などの活動の助けになりました。府県単位の助成もあり、企業の助成金はありがたいことです。

さらには、NTT西日本、三菱電機（株）、バンドー化学（株）などは、企業のCSR活動の一貫として、参加いただき、社員の方々から事務所や自宅の周辺、出張先で採集いただきました。今後、市民参加型調査として、カタツムリ、ダンゴムシを検討していますので、参加いただけるとうれしいです。